163

枦堀（あぜぼり）遺跡

（日置郡松元町石谷枦堀）

位置と環境

遺跡はJR上伊集院駅より北に約1.7㎞離れた標高約185mのシラス台地縁辺部に立地している。同じ台地上に旧石器時代の宮ヶ迫遺跡，谷を隔てた台地には前山遺跡が所在する。

調査の経緯

南九州西回り自動車道建設に伴って，県教育委員会が平成4年から5年にかけて発掘調査を実施した。調査面積は2,700㎡である。

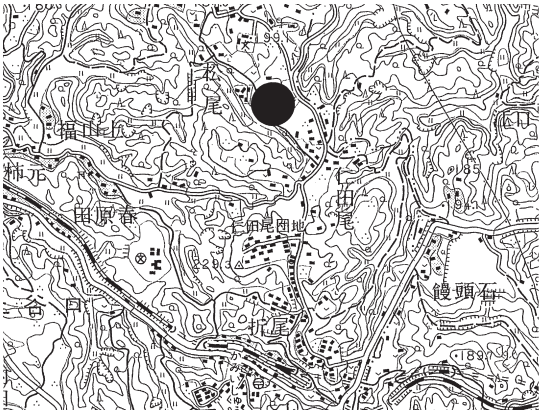
遺構と遺物

旧石器時代細石刃文化期，縄文時代早期～晩期，古墳時代，古代～近世の遺物や遺構が発見された。

旧石器時代の遺構は，細石刃に伴って1基の礫群と550㎡の範囲に19か所のブロック（遺物集中箇所）が検出され，遺物4,578点が出土した。石器は，細石刃核47点，ブランク6点，細石刃225点，調整剥片8点，三稜尖頭器4点，台形石器1点である。特徴のあるブロックが4か所あり，これらのブロックでは長崎県の針尾島産の黒曜石が主体で，特にHブロックでは278点の出土遺物の内，65%をしめ，同石材の細石刃が122点出土したことから細石刃の剥出地であったと想定される。

縄文時代では，早期の集石6基と晩期の土坑・溝状遺構が検出された。

土器は，早期～晩期までのものがみられ，早期の岩本式・前平式・平栫式土器や晩期の黒川式土器などが多く出土した。晩期では8点の組織痕文土が出土し，全て編布の圧痕である。経糸，緯糸とも撚糸を使用し，経糸がそれぞれ一定の間隔で編まれ，緯糸の太さはほぼ一定に揃えている。石器では，晩期土器と共伴して4条の溝がある砂岩製の砥石が出土している。これは形態より玉製作に使用されたと考えられる。



第1図　枦堀遺跡の位置

特徴

石鏃・石槍・細石刃との組み合わせなど，旧石器時代から縄文時代への移行期の遺跡として重要である。

資料の所在

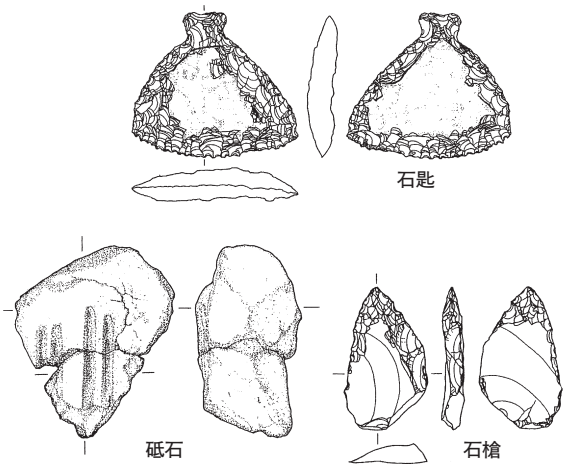
出土遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

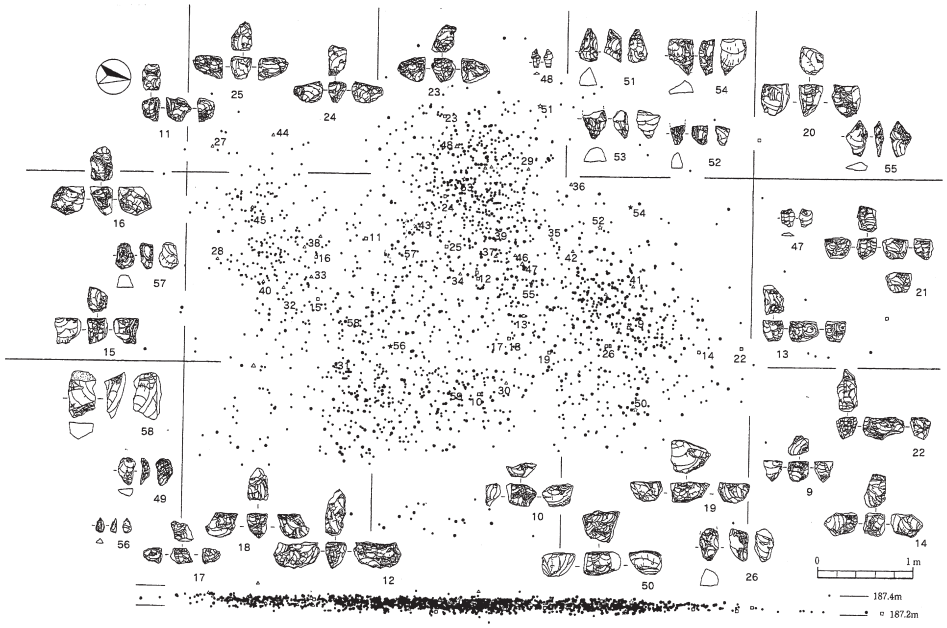
鹿児島県立埋蔵文化財センター2001「枦堀遺跡・西ノ原B遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』30

（牛ノ濵　修）

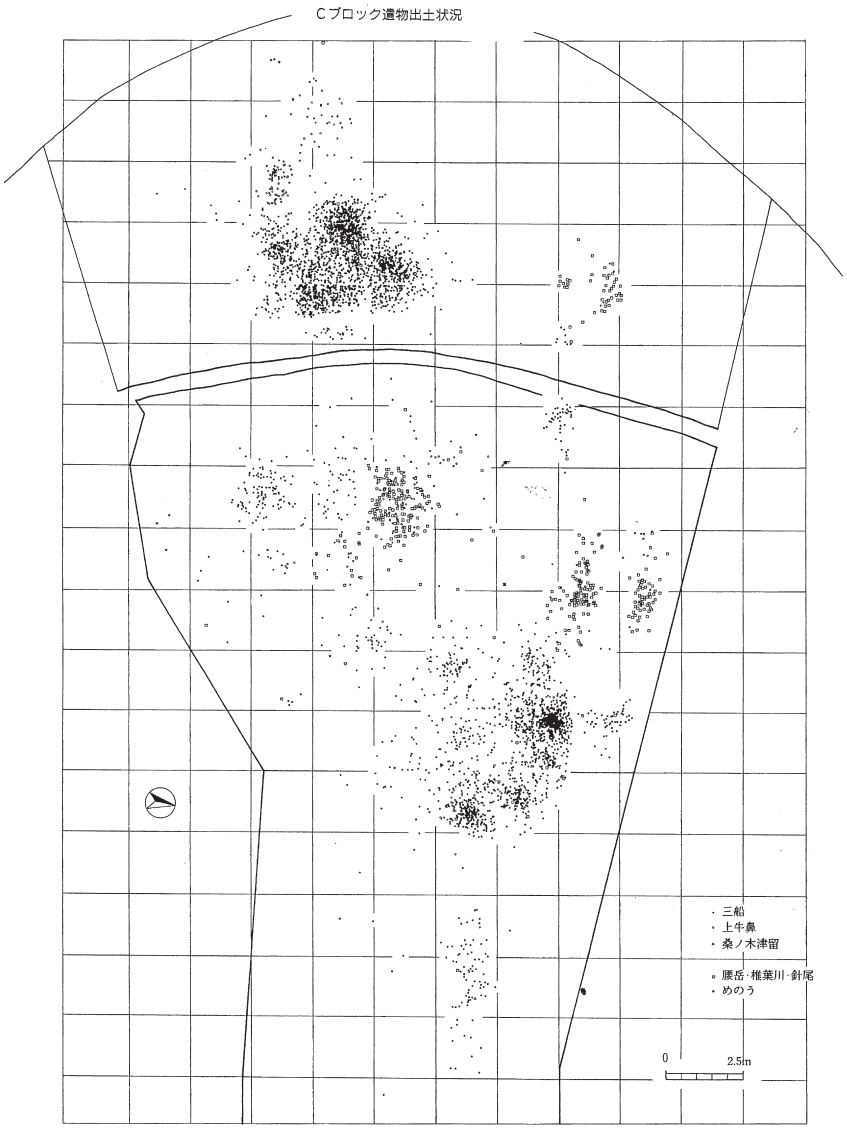
写真1　枦堀「発掘風景」



第2図　縄文時代晩期出土石器



Cブロック遺物出土状況



石材ブロック別分布図

第3図　旧石器時代遺物出土状況